

第24回市民自治推進委員会 まちづくり部会議事録

(敬称略)

開催日時	令和5年7月7日(金) 18時00分～19時30分
開催場所	登別市役所 2階 第1委員会室
出席者	(部会長) 中原 義勝 (副部会長) 山口 賢治 (部会員) 鳴海 文昭、寺山 義民、川人 文男、 川田翔太郎、工藤 隆行 (庁内委員) 笠井 康之 (庁内委員兼事務局) 大越 智輝 (事務局) 鳥海 秀充、相馬 杏
議題	(1) 登別市中央地区まちづくり協議会・ワーキンググループ 会議の協議内容について (2) まちづくり部会の取り組みについて

(1) 登別市中央地区まちづくり協議会・ワーキンググループ会議の協議内容について

事務局より登別市中央地区まちづくり協議会・第1回～第4回ワーキンググループ(WG)会議の配布資料をもとに、委員に対してこれまでの協議内容情等、情報共有を図った。

- ・第1回の会議では、他市の事例を元に、実際のまちづくりに関する取組内容を紹介した。
- ・第2回の会議では、中央地区の目指すべき姿について協議し、コンセプト作りに向けたキーワードを探した。具体的に「世界一のまち」「つながりの強いまち」や「宿泊施設がほしい」などのキーワードが出た。
- ・第3回の会議では、第2回に引き続きコンセプト作りに向け協議を行い、新たに「ボーダーレス」「人が集まる」などのキーワードが出た。さらに第3回の会議では、30年前に現在の登別中央ショッピングセンターアーニスを建設する際のまちづくりに携わった方の話を聞きたいと委員から意見があった。
- ・また、学生委員会(計2回)では、「ホテルや図書館などの複合的な施設」「若者が集うような施設」「図書館に自習スペースやカフェスペースがあれば利用したい」などの意見が学生から出た。
- ・第4回の会議では、前回の会議で意見のあった、30年前にまちづくりに携わった方を講師に招き、開発に至った経緯などの話を聞くことができた。
- ・第5回の会議では、グループを2に分けてコンセプトについて協議し、「つながる、つなげるまち」「一緒に行こう」「ふらっと行ける」などのキーワードが出た。
- ・第6回の会議では、各グループごとに1つつコンセプト案を提案した。

コンセプト案①

「つながるまち つなげるまち つたえるまち つたわるまち」

⇒ひととひと、世代と世代、まちとひと、まちとまち、全てのものがつながり、そしてそこで生まれた歴史も含め、いろいろなものが伝わり、その中で街や経済、商売が生み出せるまちになると良いという思いが込められた案。

コンセプト案②（事務局案）

「まちと温泉、人と人がつながり、未来をつむぐまちづくり」

⇒これまでのワーキンググループでの協議や市民・団体などとの意見交換などを参考に、登別市に住んでいる住民だけではなく、温泉を訪れる観光客など、あらゆる人が、様々な形でつながることで、よりすばらしい未来を築いていきたいという思いがこめられた案。

コンセプト案③

「いつでもだれでもほっと一息 ふらっと行きたくなるまちづくり」

⇒登別に住んでいる人だけではなく、地方から来る観光の人など、いろいろな人がふらっと行きたくなるような、そして、それぞれ自分の好きな時間を過ごす。中にはほっと一息つきたい人もいれば、公園で遊びたい子どもがいて、高齢者の方もいる。いろいろな人が集まることにより、賑わいや新たなコミュニティが生まれる、そんなまちができると良いという思いが込められた案。

- ・この3つの案を元にまちづくり協議会で協議した結果、全ての案が混ざり合うような「観光とまち つながる つなげる 人と人 ホットするまちづくり」というコンセプトに決定した。

意味：観光とまち、人と人がつながり、つなげていくことで、人が集まり智慧を出し合い、にぎわい溢れるまちを皆で創り上げ、さらに、そのすばらしいまちを次の世代へとつなげていきたい。また、どの世代の人でも、ホッとできる目的がなくても行きたくなるようなまち、一度登別を離れても戻ってきたくなるまち、そのような魅力ある温かい（ホッとする）まちになってほしいとの思いが込められたコンセプト

- ・コンセプトの決定を受け、今後どのようにまちづくりを進めて行くのか、協議会よりスケジュールが示されたため、部会員にも情報提供した。
- ・今後も登別市中央地区まちづくり協議会やWGでの協議内容を部会員に情報提供を行うこととする。

～以上、これまでのまちづくり協議会及びWGの協議内容等情報共有を終了する～

- ・コンセプトについては非常に良いコンセプトだと思う。
- ・具体的にどのように肉付けして行くのかが重要である。
- ・スケジュールについて、市としての考えが見えないと感じた。協議会としてだけではなく、市としてどのように考えて行くのか。
- ・市議会を巻き込んだ意見交換が必要。報告や情報提供ばかりで、議会としてどのように考えているのか聞く必要があるのではないか。

- ・現在、登別地区のまちづくりが本格的に始まり、その後で現庁舎跡地の話になると思われるが、急がずに、協議会や市議会、市、学生など全体で協議するなど良いと思う。

(2) まちづくり部会の取組みについて

- ・これまでのまちづくり部会では、町内会の加入率向上のためのチラシ作成、健康座談会の開催を行って来た。
- ・今後の部会の取組について、部会員へ意見を聴取する。
- ・まちづくり部会として、何に取組むのかということを考えてとき、まちづくりは幅広い分野に関わるため、対象が絞りにくいものだと思う。
- ・まちづくり協議会のコンセプトに「つなげる つながる」とあるように、まちづくりとは場作りをすることではないかと考える。
- ・「つなげる つながる」ということを考えると、世代間を問わず、いろいろな人を巻き込む必要がある。これからは、次世代の主演となり得る学生を巻き込む場を作ることが部会として促進していくことも良いと思う。協議会のコンセプトにも通じるものがあると思う。
- ・令和4年度の協働のまちづくりセミナー（市主催）では、市内の中学生・高校生・専門学校生を対象にSDGsセミナーを実施した。
- ・若い時からまちづくりに関わらせることで、継続的にまちづくりに参加することに繋がり、Iターン、Uターンにも繋がると思う。自分が始めたこと、関わったことには少なからず興味がわくと思う。
- ・これまでのまちづくりにおいて、いろいろな人の意見が反映されていると思うことはあるが、実際にその場で暮らす、使用する人のことを考えているのかと思うことがある。バリアフリーのことに関しても、実際に使用してみると不便なことが多い。
- ・まちづくりにおいて、早い段階から協議会やそこで暮らす人、そこを使用する人の意見を取り入れてほしい。
- ・まちづくりとしてきれいなまちでありたいという思いがある。
- ・高齢化による町内会の担い手不足が深刻化しているため、若い人が地域活動に関わってくれるような方法をまちづくり部会で検討していただくと助かる。
- ・魅力ある町内会づくりが必要である。
- ・自分の所属する団体では、真冬のお祭りを実施している。近年新型コロナウイルスの影響で開催を中止していたが、本年度から再開しようと考えている。
- ・ペットボトルキャンドルや登別商工会議所の鬼の演出、花火などを実施し、2時間程度で250名ほど来場者があり、一つのコミュニケーションの手段になっている。
- ・また野菜販売などを実施し、地域のお年寄りを家の外に出すような取組みも行っている。
- ・子どもも大人も家の外に出すようなイベントや取組みを行うのが良いと思う。
- ・地域の人との交流をベースとして、イベントの提案や仕掛けを部会として取組むこ

とで、町内会加入率の向上にも繋がるのではないかと。

- ・以前に自分の所属する団体で「グリーンパトロール隊」というものがあった。列車に乗り地方へキャンプなどにも行っていた。当時は企業なども積極的に協力してくれていた。
- ・昔はラジオ体操に参加するとハンコがもらえ、ハンコが溜まると鉛筆などの景品がもらえると、子ども達が集まっていた。またその子ども達の親も朝早くに行っていたため集まっていた。こういった活動の復活も良いと思う。
- ・コロナ渦でお祭りが激減したため、子ども達のお祭りへの関心は非常に高いと思う。お祭りのスタンプラリーなども良いのではないかと。

次回の部会の開催日程

● 8月22日（火） 18時～